

平成２８年 第１０回教育委員会 会議録

日 時	平成２８年１１月１５日（火） 午前１０時～１１時４３分
場 所	向日市役所 第６会議室
出席委員	永野教育長、前田委員、白幡委員、松本委員、流石委員
事 務 局	教育部長、副部長兼文化財調査事務所長、教育総務課長、生涯学習課長、学校教育課長、教育総務課担当課長、学校教育課担当課長、学校教育課主幹、教育総務課主査
議 題	委員会諸報告 議案第１１号「向日市議会平成２８年第４回定例会の議決を経るべき議案に対する意見について」
傍 聴 者	なし
教育長	開会宣言
教育長	会議規則の規定により、第９回会議録の承認について諮る。 (全員異議なし)
教育長	会議録は承認された。 まず始めに、委員会諸報告について報告を願う。 「平成２８年度保幼小連携教職員研修会について」報告を願う。
事務局	— 平成２８年度保幼小連携教職員研修会について — この研修会は、保育所、幼稚園、小学校の連携の重要性を学ぶとともに、お互いの教育方針・目標及び指導内容等について交流し合うことを通し、教職員に求められる資質向上を図ることを目的として開催したものである。 福祉行政とも連携し、乙訓教育局や乙訓教育委員会連合会、乙訓私立幼稚園協会を通し、広く参加を募ったところ、市内外の保育所、幼稚園、小学校の職員約７０名の参加があった。 京都教育大学 古賀准教授の講演の後、グループ協議に重点を置き、グループワークを行った。学習発表会や体験学習をテーマに、「子どものまなび」等の教育方針を話し合うことで、異なる職種でも共通理念を理解しあうことができたといった成果があり、有意義であったと好意的な感想が多くあった。 日程の都合上、他市町の小学校教職員が不参加だったことが、来年度の課題である。 【質疑等】

委員	長岡京市、大山崎町の小学校教職員の不参加に特別な理由はあるのか。
事務局	公務上の都合であり、特別な理由はない。
委員	研修会に参加した他市に所在する幼稚園は、向日市民の幼児を多く受け入れているのか。
事務局	乙訓私立幼稚園協会に在籍している園から参加していただいたため、向日市在住の園児が1，2名しかいない園もあった。
委員	今後、この研修は、年1，2回開催の予定であるのか。
事務局	他の研修会等を勘案し、1回を想定している。
委員	共通意識を持つことは非常に重要であるため、この研修はぜひ今後も継続して欲しい。
委員	異なる職種でも、共通のテーマを提示することで、限られた時間の中でも不消化になることなく、職種、地域を超えて共通点や、問題点を発見することができる。グループの人数も4人にすることによって、中身も練りやすいため、お互いの関係性を築く良い機会だと感じた。
委員	この研修会を機に、教育と福祉が協働して欲しい。
教育長	この研修会は、特別な支援を必要とする子ども等の継続した支援の必要性が高まる中、乙訓私立幼稚園協会から要望があり実現したものである。 教育と福祉、又は他市と強固な連携が必要であると感じており、来年度も継続する予定である。課題である日程調整については、乙訓教育局に主管となっていていただき、他市との連携も図りたいと要望を伝えている。
教育長	次に「史跡乙訓古墳群について」及び「史跡乙訓古墳群五塚原古墳の調査について」報告を願う。
事務局	— 史跡乙訓古墳群について — 平成28年3月1日に史跡指定を受けた「乙訓古墳群」について、広域に周知するために、文化財保護法に基づく基準で史跡名称石碑の建立を行った。

事務局	高さ約 2 5 0 c m の石碑は、公園又は遺跡への入り口付近に設置し、既存の石碑の刻印や入れ替えを含め、7 基設置した。 — 史跡乙訓古墳群五塚原古墳の調査について — 範囲確認調査は、史跡活用を目的として平成 2 5 年度から 3 0 年度までの計画で実施しており、これまでの調査から、「斜路状平坦面」が確認され、向日丘陵で最も古い古墳時代前期の前方後円墳であることが判明している。 今年度の調査では、五塚原古墳から初めて出土遺物である埴輪棺が確認された。 第 6 向陽小学校の横にある妙見山古墳と同じ時期のものと推定され、五塚原古墳の築造時期に関わるものではなかったが、乙訓古墳群の時期の解明に繋がると考えている。 平成 3 0 年度まで計画発掘の継続を行う中で、さらなる手がかりを探すとともに、整備に向けた研究や追加調査を行いたいと考えている。 【質疑等】
委員	説明会の参加者は、向日市在住の方が多いか。 また、昨年度に比べ参加人数が減っているのはなぜか。
事務局	向日市の方だけでなく、府外からも多くの方が参加されている。 前年度は、「斜路状平坦面」が、日本で初めて五塚原古墳の発掘調査で確認された報道を行ったため、全国各地から多くの方が参加された。
委員	古墳に説明看板は設置されているのか。石碑だけでなく、説明看板の変更計画はあるのか。
事務局	説明看板は、全ての古墳に設置している。 記載内容が最新の情報になるよう改修しているほか、ふるさと創生計画の中で、随時整備していく予定である。
教育長	埴輪棺はどの辺で確認されたのか。
事務局	後円部が最も西側へ張り出した墳丘裾で確認された。
教育長	次に「第 2 向陽小学校グラウンドナイター修繕について」報告を願う。
事務局	— 第 2 向陽小学校グラウンドナイター修繕について —

	学校体育施設開放のために、第2向陽小学校のグラウンドに設置をしているナイター設備についての修繕を行うものである。 学校の冬期休業期間中に、現在設置している4基24灯の水銀灯を撤去し、LEDの照明を設置する予定である。 【質疑等】
委員	学校周辺の方の理解は得ているのか。
事務局	理解いただいている。
教育長	次に「平成28年度人権擁護啓発ポスターコンクールの入選者について」及び「第5回子ども読書本のしおりコンテストの入賞者について」報告を願う。
事務局	ー 平成28年度人権擁護啓発ポスターコンクールの 入選者について ー 人権擁護啓発ポスターコンクールは、京都府人権啓発推進会議の主催により、毎年開催されているものである。本市では、各学校とも人権教育の一環として教育課程に取り入れて子どもたちのポスターの製作を通して人権について考え理解を深める機会として取り組んでいる。 今年度は、最もよい12の会議構成団体賞のうち、京都府中小企業団体中央会会長賞を第3向陽小学校2年の縄間滉右さんが受賞し、優秀賞を、寺戸中学校2年の小西心佳さんが受賞した。そのほかにも多くの児童、生徒が佳作をいただいた。
事務局	ー 第5回子ども読書本のしおりコンテストの入賞者について ー 子ども読書本のしおりコンテストは、夏休みの取り組みとして、他のコンテストやコンクールとともに子どもたちに紹介しており、学校に応じて参加しているものである。 今年度は、最優秀賞2賞のうち、京都府教育委員会教育長賞を、向陽小学校4年の合木陽春さんが受賞し、優秀賞を3名、第2向陽小学校1年下川路大和さん、同じく第2向陽小学校6年三木結愛さん、北原文平さんが受賞した、そのほかにも多くの児童が佳作をいただいた。 なお、合木陽春さんの作品はしおりにされ、府内全域に配られる予定である。また、佳作以上の入賞作品巡回展が、12月22日から1月11日まで向日市立図書館で行われる。
教育長	次に議案第11号、「向日市議会平成28年第4回定例会の議決を経るべき議案に対する意見について」を上程する。

	この議案については公開することにより、今後の市議会での審議への影響も考えられるため、秘密会にしたいと思うが、賛成の方は挙手願う。
	(全員挙手)
教育長	全員挙手により秘密会とする。
	(以下秘密会)
教育長	議案第 1 1 号、「向日市議会平成 2 8 年第 4 回定例会の議決を経るべき議案に対する意見について」の採決を行う。
	(全員挙手)
教育長	議案第 1 1 号は承認された。
教育長	秘密会を解く。
	(以上秘密会)
教育長	閉会宣言

平成28年第10回教育委員会

平成28年11月15日（火）
午前10時から
向日市役所 第6会議室

1 開 会

- 2 委員会諸報告
- 平成28年度保幼小連携教職員研修会について
 - 史跡乙訓古墳群について
 - 史跡乙訓古墳群五塚原古墳の調査について
 - 第2向陽小学校グラウンドナイター修繕について
 - 平成28年度人権擁護啓発ポスターコンクールの入選者について
 - 第5回子ども読書本のしおりコンテストの入賞者について

議案第11号 向日市議会平成28年第4回定例会の議決を経るべき議案に対する意見について

3 閉 会

平成28年11月15日
学校教育課 指導係

平成28年度保幼小連携教職員研修会について (第3回向日市教職員研修会)

1 目 的

保幼小接続の重要性を学ぶとともに互いの教育方針・目標及び指導内容等について交流し合うことを通して、教職員に求められる資質能力の向上を図る。

2 主催/後援

向日市教育委員会
/京都府乙訓教育局 乙訓教育委員会連合会 乙訓私立幼稚園協会

3 日時/場所

平成28年10月26日(水) 15:00～17:00 /向日小学校(多目的ルーム)

4 対象者

向日市立小学校教員、向日市立保育所職員、私立幼稚園教員(向日市、長岡京市、大山崎町)、長岡京市立小学校・大山崎町立小学校の参加希望教員、向日市内私立保育園の参加希望職員

5 内 容

- (1) 講 演 「幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続に向けて」
京都教育大学 准教授 古賀 松香 氏

- 連携と接続のレベルの違いから認識し、実践交流のみになっていないか。
- 共有すべきは、子どもの学びの見取りと子どもの学びのプロセス
- 教育理念や子ども観の交流から接続の理念・方針を編み出し、具体的な内容や方法(目指す地点:目標)を実践可能な方法で考える。
- 取組の理念と方法を継承していくためには、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムをつくり、カリキュラムマネジメントを行う枠組みをつくること。

- (2) グループ協議(4名×12グループ)

「小学校、保育所(園)・幼稚園の教育方針・目標及び指導内容等について」

- ◆自己紹介後、各所属の実践においての子どもにつけたい力の具体例を交流
- ◆様々な実践から「子どもの学び」を出し合い、指導の共通理念を見つけ、大切にするねらいを共有
- ◆共有したねらいをもとに、子どもの評価の見方を共有し、高めあう事柄を整理
- ◆各グループのまとめを交流し、接続の関係性や重要性を認め合う。

- (3) 感想(抜粋)

- 子どもに向かう姿勢は、異業種でも同じであった。接続になる取組にしたい。
- 行事(取組)のための活動ではなく、子どもの成長のための活動にする。
- これまで接続のための話し合いはなかったので、このような機会を重ねたい。
- これまでなかった研修で、見方を変えるとこれほど共通点があるのかと驚いた。子を大切に保育・教育をしていると感じ、明日からの子に向き合う思いができた。
- 実践レベルは異なっているけど、大切にしていることは同じなので、今以上に密な接続を実践していきたいと思う。
- 今までに小学校の話聞くことがなく、教育方針を互いに知ることができ、同じように子どもを大切と考える仲間だと感じた。
- 今回の研修で共通していたことが「自己肯定感」だったので、それぞれ目標が違ってても、共有できることがあり、それを大切にしていこうとわかった。このような機会は大切だと感じたので、小学校と関わりが持てるなら交流したいと思った。

6 参加状況 70名(向日市51、長岡京市12、大山崎町7)

向日市:51(小:20) (保:11) (幼:19)				長岡京市:12	大山崎町:7
向陽:3	4向:2	1保:3	向陽幼:5	一里塚幼:2	がくえん幼:7
2向:8	5向:2	2保:2	成安幼:9	カトリック幼:3	
3向:2	6向:3	5保:2	まこと:5	むらさき幼:7	
		6保:3			
		あひる:1			

平成28年11月15日
文化財調査事務所

史跡^{おとくにこふんぐん}乙訓古墳群について

- 1 史跡の内容
- 桂川右岸で、北から京都市、向日市、長岡京市、大山崎町域の11基の古墳を「乙訓古墳群」として、平成28年3月1日に一団で史跡指定を受けた。
乙訓古墳群は、古墳時代の始まり（卑弥呼）から終わり（聖徳太子）の時代まで、一つの地域にまとまって所在していることから、全国でも先例となる史跡指定となった。
- 2 標識設置
- 史跡名称石碑の建立
- 3 根拠法令
- 文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）第115条に基づき、史跡名勝天然記念物標識等設置基準規則（昭和29年6月29日文化財保護委員会規則第7号）に準拠。
- 4 設置数
- 計 7基
- | | | | |
|----|---------|---|------------------------|
| 内訳 | 寺戸大塚古墳 | 1 | 既存の石碑（寄付品）に史跡と刻印 |
| | 元稲荷古墳 | 2 | |
| | 五塚原古墳 | 2 | |
| | 南条古墳 | 1 | |
| | 物集女車塚古墳 | 1 | 既存の陶板（府指定）を乙訓古墳群銘に入れ替え |
- 5 設計図
- 別紙のとおり
- 6 除幕式
- 平成28年10月12日（水） 元稲荷古墳（勝山公園）



▲除幕式風景



▲陶板入替え（物集女）



▲既存石碑刻印（寺戸）

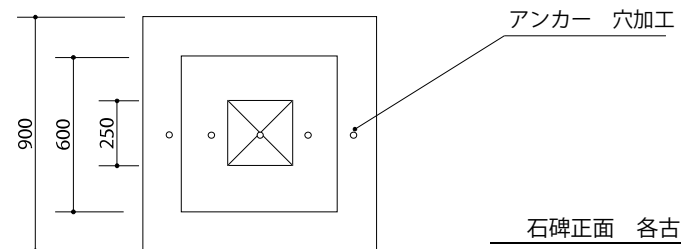
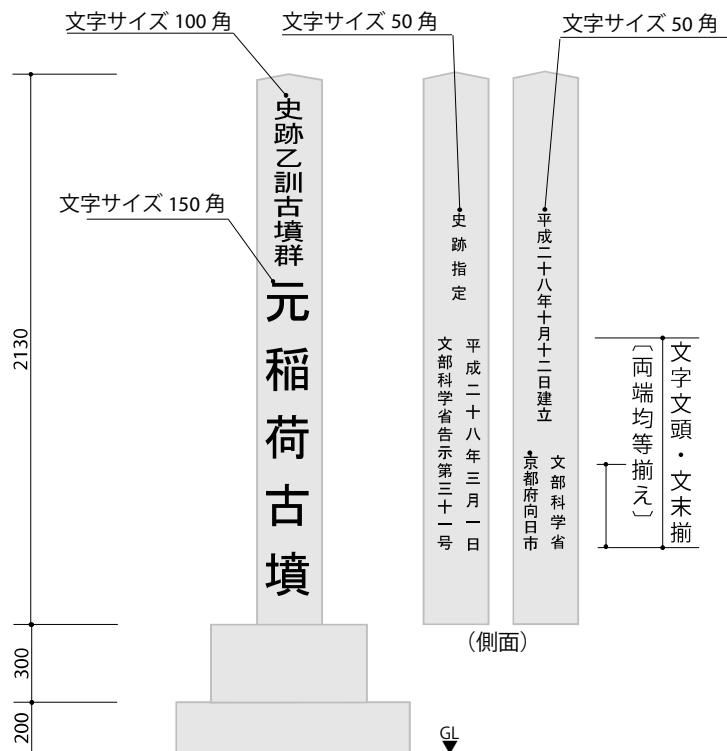


▲建立した石碑

- 7 今後の活用
- 史跡長岡宮跡と連携し本市の文化財の核として活用

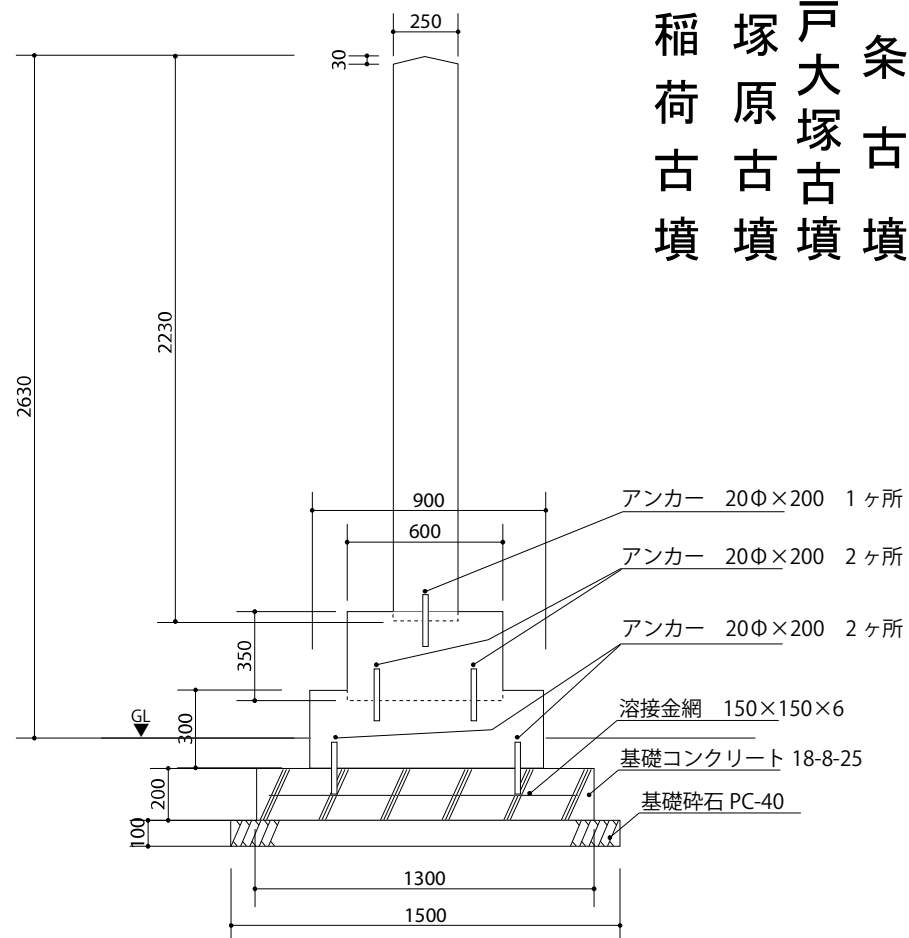
向日市 史跡指定標識（石碑）

白みかげ石 ビシャン仕上げ
文字 彫り込み 色入れ無し



石碑正面 各古墳刻印文字

元稲荷古墳
五塚原古墳
寺戸大塚古墳
南条古墳
物集女車塚古墳



おとくにこふんぐん
史跡乙訓古墳群五塚原古墳の調査について

1 調査目的
範囲確認調査
平成25年～27年 史跡指定のため
平成28年～ 史跡活用のため

2 古墳の規模と調査成果

全長	91.2m
後円部径	54.0m
後円部高	8.7m
前方部長	40.5m
前方部前面幅	33.0m
前方部前面高	2.1m ～ 4.0m
くびれ部幅	15.0m

古墳時代最初期の3世紀半ばから後半頃の築造

○調査の結果、細いくびれ部から前方部がバチ状に開く形状の、向日丘陵でも最も古い古墳時代前期の前方後円墳であることが判明した。

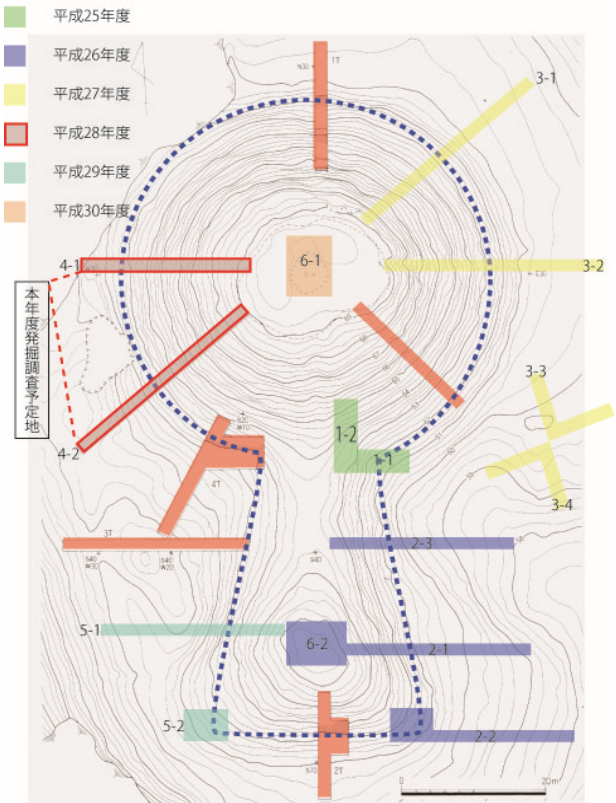
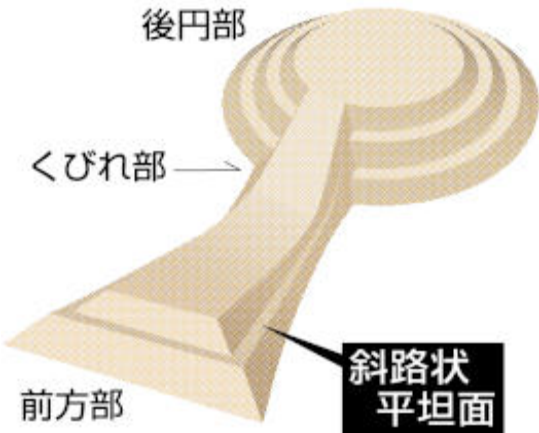
乙訓古墳群の中で、最古の古墳

3 今後の調査
平成30年度まで範囲確認調査
↓
保存、整備、活用（追加調査含む）

4 平成28年度成果
別紙「説明会資料」のとおり

5 現地説明会

平成28年度	305人
平成27年度	400人
平成26年度	650人
平成25年度	250人



五塚原古墳後円部南西斜面の調査

所 在 京都府向日市寺戸町芝山3-1-6 ほか 調査期間 平成28(2016)年8月8日～10月28日(予定)
調査所管 向日市教育委員会 調査機関 公益財団法人向日市埋蔵文化財センター(担当 梅本康広)
調査協力機関 寺戸財産管理会 寺戸町連合自治会 寺戸農家組合 大牧自治会 向日市公園住宅課、総務課 京都大学考古学研究室

1 はじめに

当センターでは向日丘陵古墳群の保存と活用の方法を探る目的で、五塚原古墳を対象に墳丘の遺存状況と範囲、内容の確認調査を実施しています。

立命館大学と協同ですすめてきた発掘調査は平成12(2000)年に始まり、7次の調査が行われてきました。これまでの調査によって、墳丘の構造は後円部が3段、前方部は2段で、前方部の形状は細くて長い「バチ形」を呈し、斜面途中に「斜路状平坦面」を備えるなど箸墓古墳と共通した墳丘の築成方法が確認され、最古型式前方後円墳のひとつであることが明らかにされています。

墳丘の規模は全長91.2m、後円部径54m、同高8.7m、前方部長40.5m、同前面幅33m、同高2.1～4.0m(くびれ部付近から前方部頂)、くびれ部幅15mの復原値が得られてきました。

今年度は後円部西側斜面に第1調査区、南西側斜面に第2調査区を設定し、後円部の形状と段築の構造、墳丘外周の状況、古墳に伴う遺物の有無を把握するために調査を実施しています。

2 調査の成果

〔第1調査区〕 墳丘の南北中心線から西へ90度の方向に設定し、後円部の西側面の形状及び段築構造、葺石・礫敷の遺存状況、墳丘の範囲を確認するために設けました。

墳丘斜面は裾から墳頂までのあいだに、途中二箇所平坦面を設けて三段に築かれています。斜面の勾配は各段ともに裾から急角度で立ち上がったのち、緩傾斜に変化しています。葺石は斜面下半部に遺存しています。斜面上半は葺石が脱落して墳丘の盛土が露出しています。また、基底石やその直上に施された葺石は一部で、樹根の進入などの影響を受けて倒壊したり、大きくせり出すところが見られます。

検出した各段の規模は次の通りです。

第一段斜面長(水平距離)3.6m、高さ2.4m、第二段斜面長3.7m、高さ2.1m、

第三段斜面長約8m、高さ約3.0m(推定)

基底石の外側には礫敷が1.5m幅で設けられています。墳丘斜面途中に設けられた平坦面は、各平坦面ともに幅1.0m分を確認しました。その上面には径10cm未満の細礫を隙間なく詰め込んで平坦な礫敷がつくられています。

埴輪棺 後円部が最も西側へ張り出した墳丘裾で配石と埴輪からなる埋葬施設が確認されました。その長軸は墳丘主軸から少し西側へひらいています。配石は隅丸長方形を呈し、長さ1.3m、幅0.55mの規模を有しています。内部には朝顔形埴輪を転用した棺身が据え置かれ、破片を被せて棺蓋としています。また、墳丘裾を取り込んで東壁をつくり、南側は埴輪片を立たせて小口としています。朝顔形埴輪は頸部が屈曲する箇所を打ち欠いてその小口にあてて置かれています。埴輪棺のすぐ西側には、これとほぼ同じ規模で礫敷の石材が無い箇所があり、埴輪棺を被覆する礫に使用するために抜き取られた痕跡と考えられます。

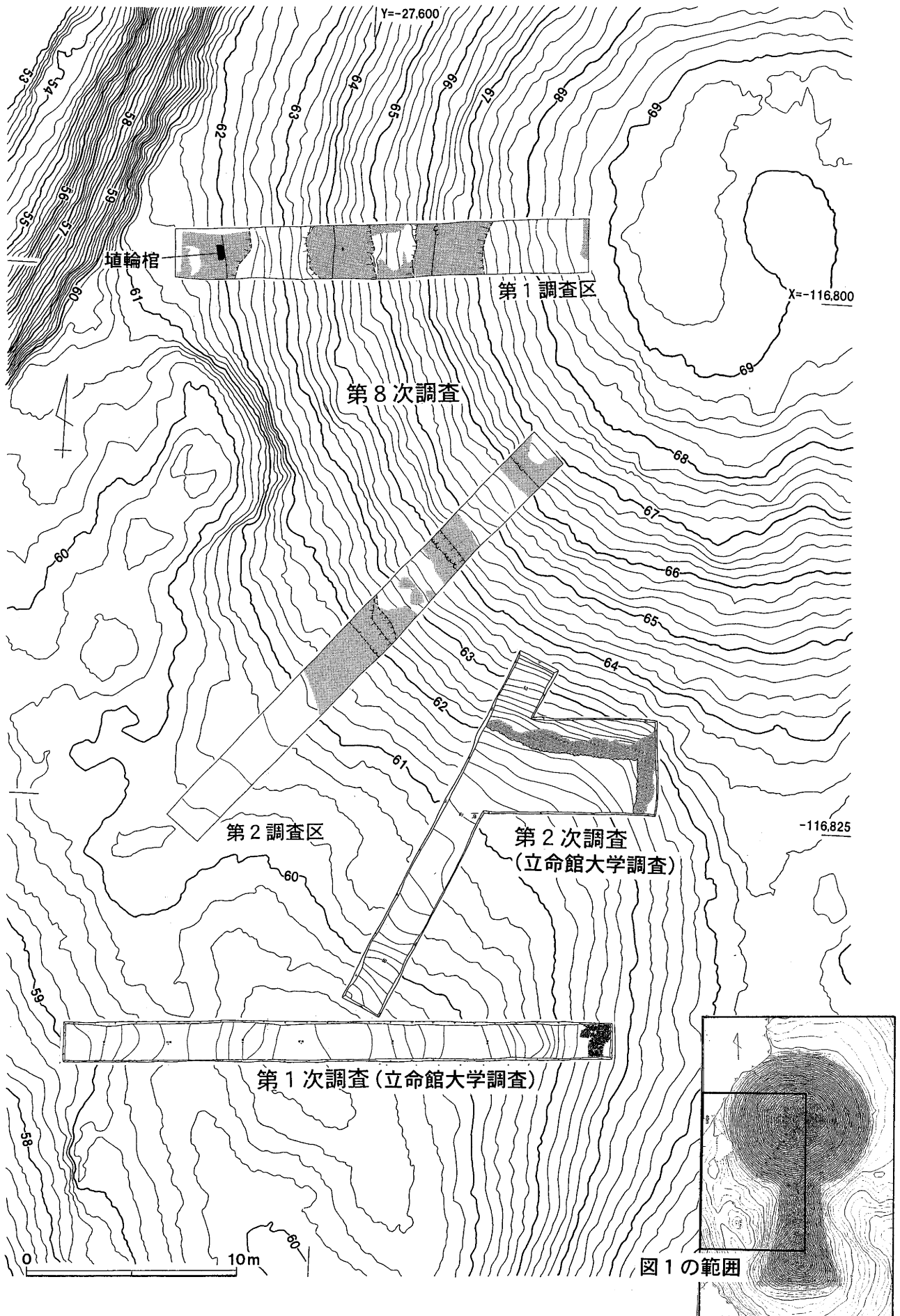


図1 後円部・くびれ部西側の調査成果 (1/250)



図2 埴輪棺の検出状況（上が東）

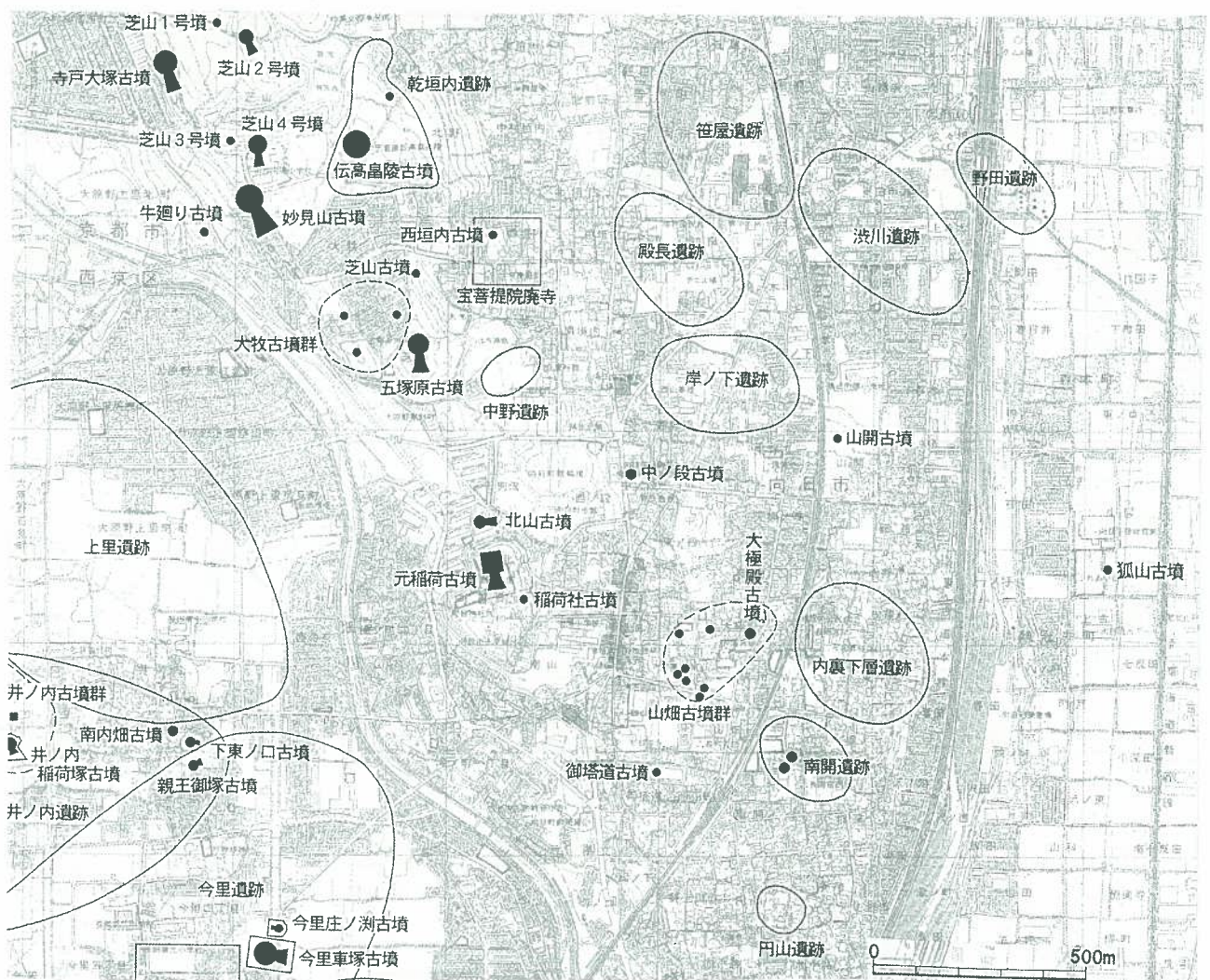


図3 五塚原古墳と妙見山古墳の位置

【第2調査区】 墳丘の南北中心線から西へ135度の方向に設定し、後円部の南西側面の形状及び段築構造、葺石・礫敷の遺存状況、墳丘の範囲を把握するために設けました。斜面の勾配は裾から0.4mまでが急角度で立ち上がり、上部の平坦面までは緩傾斜となります。検出した各段の規模は次の通りです。

第一段斜面長4.6m、高さ2.4m、第二段斜面長4.3m、高さ2.2m、第三段斜面斜面長8m、高さ2.8m
墳丘裾の外周には、礫敷が幅2.0m以上遺存しています。さらに外側は周辺よりも高い平坦面が広がっています。墳丘外周は丘陵地形を削ってできた平坦面やくぼ地が備わり、墳丘裾と外周の傾斜に変化を持たせて墳丘を立体構造物として壮観にみせる工夫がとられているものと思われます。

3 出土遺物

今回の調査でも、本墳の築造時期に関わる遺物は出土しませんでした。これまでの調査成果を勘案すれば少なくとも本墳には埴輪は無かったとみてよいと思われます。後円部墳頂で祭祀に使用された土器の存在も依然として確認できず、そこで使用された土器は少なかったか、儀礼の後に片付けられたとみられます。

いっぽうで、思いがけない発見がありました。棺に転用された埴輪の存在です。この埴輪の中には本墳から北西へ約500m離れた位置に所在した妙見山古墳（前期後葉、墳丘長110mの前方後円墳）で出土した朝顔形埴輪と同じ特徴を確認することができます。なかでも、注目される技法的要素として、朝顔形埴輪の頸部付近にめぐらせる突帯の貼り付け方法があげられます。朝顔形埴輪は多くの場合、頸部の屈曲点に突帯を貼り付けますが、妙見山古墳では頸部屈曲点から少し下がった位置に貼り付けるという独特な製作技法がみられます（向日市文化資料館2004年『向日丘陵の前期古墳』35頁参照）。ほかにも、粘土素地に混和剤（細礫）を多く含ませる胎土や突帯の形状、その貼り付け間隔、外面調整技法などにも共通性がうかがえます。

以上のことから、今回出土した埴輪は、五塚原古墳に樹立していたものではなく、元稲荷・寺戸大塚に後続する妙見山古墳へ供給するために、4世紀中葉頃に製作されたものである可能性が高いとみられます。

4 調査の意義

今回の調査成果は、①埴輪棺が検出され五塚原古墳の周辺には小さな埋葬施設が伴うこと、②後円部の東西幅が約55mに確定できたこと、③古墳の築造時期に伴う遺物は出土しなかったこと、以上の3点に集約されます。

埴輪棺については、主墳の築造後にその被葬者の家族や親族を古墳の周辺に葬る「周辺埋葬」に相当します。埴輪棺の埋葬空間は内法で長さ80cm程度であり、未成人か改葬骨が納められたと推測されます。また、妙見山古墳築造後しばらくして、その埴輪が五塚原古墳へ持ち込まれ埋葬に使用されたものと考えられます。周辺埋葬の時期がわかる貴重な事例になります。

畿内の周辺埋葬の多くは主墳築造後1～2世代までの範囲で埋葬を終える傾向があります。本例の場合、五塚原古墳の被葬者とは3世代以上離れていた可能性も想定しておく必要があり、埴輪棺の埋葬者との時間的関係をどのような脈絡で理解するかが課題としてあげられます。

墓地の構成については、縄文時代以来、その基本原理として家族・親族といった血縁関係によって結ばれた集団ごとに墓域が形成されていたとの見方が有力です。したがって、五塚原古墳の被葬者と埴輪棺の埋葬者との間にも親族的な系譜関係があり、世代を超えて先祖と子孫のつながり（出自関係）を示したと考えることもできます。また、埴輪棺を通じて五塚原と妙見山の被葬者の間にも接点をみいだすことができ、両者を同じ親族系譜のなかに位置付けることも可能になるかと思われます。

今回、五塚原古墳でようやく古墳時代の遺物が得られましたが、埴輪棺という思いがけない発見を通じて、古墳時代のひとびとの祖霊観や系譜意識をさぐる上での大きな手がかりが得られたと考えています。

第2 向陽小学校グラウンドナイター修繕について

平成28年11月15日
生涯学習課

学校等体育施設開放のため設置しているグラウンドナイター設備について、修繕を行う。

- | | | |
|----------|-------------------|-------|
| ○ 工事概要 | 水銀灯撤去・LED照明設置 | 4基24灯 |
| ○ スケジュール | 10月28日契約 | |
| | 冬休み期間中（12～1月）工事予定 | |

平成28年11月15日
学校教育課指導係

平成28年度 人権擁護啓発ポスターコンクール

主 催 京都府人権啓発推進会議

構成団体	京 都 府	京 都 府 市 長 会	京 都 府 商 工 会 連 合 会
	京 都 市	京 都 府 町 村 会	京 都 府 中 小 企 業 団 体 中 央 会
	京 都 府 教 育 委 員 会	京 都 府 人 権 擁 護 委 員 連 合 会	京 都 府 農 業 協 同 組 合 中 央 会
	京 都 市 教 育 委 員 会	京 都 商 工 会 議 所	京 都 府 社 会 福 祉 協 議 会

開催趣旨

児童生徒がポスターの制作を通じて、基本的人権に関する一層の理解を深め、人権尊重の精神を培う。

上位入賞者

12団体賞(上記構成団体の各長名賞) 京都府中小企業団体中央会会長賞

第3向陽小学校 2年 縄間 滉右

優秀賞(1/31名 うち 中学生10名)

寺戸中学校 2年 小西 心佳

第5回 子ども読書本のしおりコンテスト

主 催 京都府教育委員会・京都府図書館等連絡協議会

開催趣旨

子どもが積極的に読書を行おうとする意欲を高めるとともに、子どもの読書活動についての関心と理解を府民の間に広める。

子どもが、読書に親しみ、特に感銘を受けた本や印象に残った真面をしおりに表現することで、想像力や表現力を高め、生涯にわたって読書に親しむ習慣を身に付けることを目指す。

上位入賞者

最優秀賞(1/2名):京都府教育委員会教育長賞

向陽小学校 4年 合木 陽春

優秀賞(3/20名)

第2向陽小学校 1年 下川路 大和

第2向陽小学校 6年 三木 結愛

第2向陽小学校 6年 北原 文平

◆ 入賞作品巡回展:平成28年12月22日～平成29年1月11日(向日市立図書館)